

管理所レビュー VOL.04

(H29.5.29 水源林管理所)

5月20日(土)に実施されました第4回のボランティア活動は、最高気温25度の汗ばむほどの陽気となり、予定どおりに間伐作業を実施することが出来ました。皆様、大変お疲れ様でした。

気温が上がってくるこれからの季節は、安全第一を心掛けた作業に加えて、熱中症対策や危険な野生生物に対する対策も必要となります。ご自身で出来るだけの対策と準備をしてご参加ください。

それでは、安全活動のための水源林管理所の振返りなどをお知らせします。

1 72名のご参加、ありがとうございます！



少し暑いけど、絶好の天気！



保安具と道具をしっかり装着。



準備運動もしっかりと。

2 作業の様子とワンポイントアドバイス。



一旦止まって、状況確認！



追い口の位置と角度はこの辺り？



傾斜地では待機中も注意して！



重量物の運搬は、みんなで協力。



キレイな受け口が出来ました。



混んだ林内では、かかり木に注意。



切断時の木の裂け具合に要注意！



材の状況を正確に見極めましょう。



安全対策の補助ロープ、大切です。

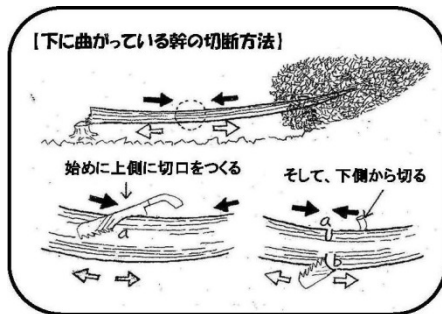
3 幹の切断方法について。

立木を伐倒した時、地形や倒れた状況などによっては、幹が曲がった状態となり、圧縮や引張りの応力がかかる場合があります。その様な状態での切断には注意が必要です。

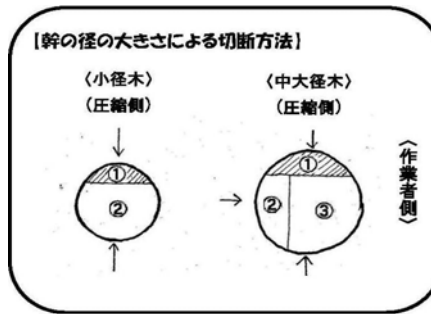
イラストAのように下に曲がっている幹を切る場合には、始めに上側の圧縮されている方に切口を作り、続いて下側から切り進めるとノコギリを挟まれることなく安全に切断できます。

イラストBは、幹の大きさによる切断方法です。中大径木は②の部分を切っておくことにより、③を切り進めていくと②の部分が次第に開いて、幹が作業員から離れるように切れていくため、作業員の安全が保たれます。「つながっている側は残り、切られた側は開いていく」という基本は、目標の伐倒方向へ倒すための追い口切りの調整の仕方と同じ理屈となります。

基本に忠実に作業しましょう。



【イラストA】



【イラストB】



正しい状況判断と基本作業。

※ 強い応力がかかっている木は、切り進めると途中から裂ける場合が考えられます。自分の方に向かって裂けてくる時などは大変危険です。また、切り進めていくうちに材が動き、ノコギリが挟まれてしまう場合もあるので、しっかりと状態を見極めることが大切になります。

正しい状況判断と基本作業による、安全な作業の実施をよろしくをお願いします。

4 ご参加、ありがとうございます。

今回の活動に、緑区の鴨居造園様から1名、磯子区の宮本土木株式会社様から5名の方々が参加されました。

横浜の水源である道志村の民有林をより良い水源林とするこの活動が、環境貢献活動に積極的に取組まれている企業、団体様などの参加により、ますます広がることを期待します。

ボランティアの会の皆さん、親切、丁寧なご指導ありがとうございました。



有限会社鴨居造園様。
(掲載許可済み)



宮本土木株式会社様。
(掲載許可済み)

※ 5月31日(水)は、晴れのち曇り、最高気温24度、降水確率20%となっています。

★それでは5月31日、気をつけてお越しください。